

b. 那珂川の水源地域

那珂川は、^{三斗小屋宿跡(那須塩原市)}周辺から峠沢、中ノ沢、御沢などの幾つかの沢水を集めて次第に水量を増しながら、ブナやミズナラの樹林帯を流れていく。水源地域は、太平洋側の気候下にありながら、日本海側の気候の影響が強く見られるところである。三斗小屋温泉から大峠にかけてのダケカンバ林では、ナナカマド、ハウチワカエデ、コシアブラなども見られる。林床には、エゾユズリハ、ヒメモチ、ヒロハツリバナなどの低木が見られる。チシマザサが優占する場所もある。ほかにタニウツギ(低木)、ミヤマイラクサ、スミレサイシン、オオタチツボスミレ、オオカニコウモリ、オニアザミなどの日本海要素の植物が見られる。

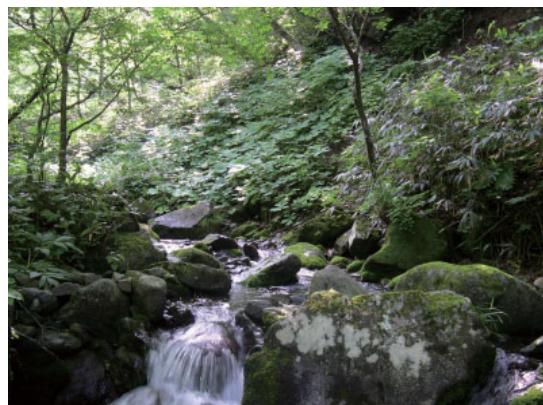


図 4-7 那珂川水源地域の沢(7月)



タニウツギ (スイカズラ科)
(写真: 植日水コン)



ハウチワカエデ (カエデ科)
(写真: 植日水コン)

図 4-8 那珂川水源地域の植物

ブナ、ミズナラ林が分布する沢筋には、サワグルミ、ケトチノキが生育し、両生類のハコネサンショウウオやタゴガエルが確認されている。爬虫類ではジムグリが多く確認されている。哺乳類ではヒミズ、ヒメネズミ、ニホンカモシカ、テン、ツキノワグマなどが生息する。鳥類では大型の猛禽類のクマタカが生息し、夏になると、ミソサザイやコマドリ、メボソムシクイ、オオルリなどのさえずりが聞こえる。

ブナ林に依存するヨシノキシタバや、ドロノキが食樹のオレクギリンガ、渓流性のクロサナエや、マルガタシマチビゲンゴロウ、チャイロシマチビゲンゴロウ、スネアカヒメドロムシも確認されている。標高の高い場所の池沼では、分布が限られているメススジゲンゴロウも生息する。

氷河期の遺存種といわれ、東北地方に偏在するトワダカワゲラや、分布の東限・北限にあるミネトワダカワゲラも確認されている。



ニホンカモシカ（ウシ科）

(写真：栃木県立博物館)



オオルリ（ヒタキ科）

(写真：栃木県立博物館)



ツキノワグマの爪痕

(写真：『那須の自然』)



ハコネサンショウウオ（サンショウウオ科）

(写真：栃木県立博物館)



左 雄／右 雌

メススジゲンゴロウ（ゲンゴロウ科）

(写真：栃木県立博物館)



クロサナエ（サナエトンボ科）

(写真：栃木県立博物館)

図 4-9 那珂川水源地域の動物